

令和6年度1回 栗東市立図書館協議会 議事録

- 開催日時 令和6年9月21日（土）10：00～12：00
- 開催場所 栗東市立図書館 小会議室
- 出席者 國松完二、松浦透、三好勉、大屋邦代、吉川なおみ、柗美樹、辻村章子
- 事務局 教育部長、図書館長、館長補佐、係長、主査
- 欠席者 3人
- 傍聴者 0人

概要

1、開会

市民憲章唱和
会長挨拶

2、協議事項

- ① 令和5年度事業報告・評価について
- ② 令和6年度事業予定について
- ③ その他

3、閉会

1、開会

（会長挨拶）

最近、国語に関する世論調査の結果が発表され、本を読まない人が6割になったということです。これまで、ずっと4割台ぐらいでしたが、コロナの時期を経て、6割を超える状況となりました。その理由の上位を占めるのは、スマホ等で情報を得られるからということです。

そのような中で、栗東市立図書館がどのような方向でサービスをすすめていくのか、協議会でもいろいろと提言をしていけたらと思います。このメンバーでの協議会は、残り1年ですが、皆さんと深く議論していきたいと思います。

2、協議事項

① 令和5年度事業報告・評価について

（事務局）「令和5年度栗東市立図書館活動報告」及び「令和5年度栗東市立図書館基本的運営方針に定める目標値に対する評価一覧（案）」について説明

（会長） デイジー図書の利用タイトルで、他館借用による提供の件数が非常に多いですが、この数値の内容は何でしょうか。

(事務局) サピエからのダウンロード、CD-ROM自体を郵送で借りるなど、全て含んだ数字が含まれています。

(会長) 雑誌スポンサーは、その図書館の資料購入費でまかなえない部分をサポートしてもらうという考え方だと思うのですが、スポンサー、サポーターの割合が非常に高く、全体の半分くらいを頼っていることになります。この図書館の規模や人口規模で考えると、購入している雑誌数が相当少ないと思います。スポンサー、サポーターで援助していただいて、このタイトル数になっていますが、自前で雑誌数を増やすような努力も必要ではないでしょうか。

(事務局) この15年ほど、予算が全く変わらない状況です。予算折衝の中では、消耗品である雑誌について、なかなか理解を得にくいことを感じています。スポンサーは、職員の営業努力と皆さんに応援しようと思っていただけることで成り立っており、誇る事だと思っておりますが、予算的な部分については、引き続き、努力していきたいと思えます。

(会長) 他の図書館と比較して、栗東の現状はどうかということ、訴えていく必要があります。

(事務局) 全てをとというのは難しいので、今年はここに力を入れるというふうに取り組んでいます。雑誌スポンサーについても、先進的な取り組みではありますが、スポンサーだけに頼らず、予算についても、引き続き検討していきたいと思えます。

(事務局) 図書館の資料費は、以前は3000万円でしたが、今は両館で1700万円です。予算が多い時には、新しいサービスを増やしていましたが、今は、新しいサービスを始めようということに、歯止めがかかってしまう状態でもったいないと思っております。予算はなくても、いかにして市民に資料を届けるか、その気持ちを大事にしていきたいと思えます。

(委員) 予算が出にくいというのは、どこをどのようにしたら、出してもらえるのでしょうか？
評価の数字だけを見ていると決して良いとは言えなくても、全体から見れば、これだけいったら上等という見方もあると思えます。その時に、どんな努力をして、そうなったかということが大切です。図書館の前にイスを出されているのも、一服ができ、市民にとって、非常にいいことだと思います。

(委員) 例えば予算折衝時はどのような資料を出されますか？

(事務局) 他市の比較の表や、何がどれくらい必要かというのを出します。

(委員) 例えば、雑誌数を出す時に、円グラフでサポーター数を表したり、他館の数を明記するなどはいかがでしょうか。グラフなどで表すことで説得力が出てくると思えます。西館の利用が減ってきていることについても、世帯の年齢層の変化など、周りの状況等も書くと分かりやすいのではないのでしょうか。

(事務局) ありがとうございます。予算面につきましては、引き続き努力していきたいと思えます。

(委員) 司書が集まらず、司書補助の雇用形態もあるということでしたが、そういった人を増やして、夜間開館をすることはできないのでしょうか？

(事務局) 西館ができた直後、夜間開館は行っておりましたが、利用が非常に少ない状況でした。

開館してどうなるかは立地条件などの影響が大きいですし、特に本館では、夜はバスもどんどん少なくなっており、厳しい状況です。

(委員) 人員確保が難しいかと思うのですが、祝日が開いていれば、子どもたちが親と一緒に来やすいと思います。

(事務局) 一時期、祝日を開館していたこともありましたが、その分、平日が振替休館日になるため、学校からの来館が難しいという状況になってしまいました。現在は折衷案として、土日が祝日の場合は開館し、それ以外の祝日は休館しています。休館日の問題については、要望も多いところですので、現在は、自動貸出機の導入も考えながら、火曜日開館に向けて、進めているところです。

(委員) 職員を増やしたら振替休館はしなくても、開館できるのではないのでしょうか。人員が必要になってきますが。

(会長) 統計として、祝日開館は利用者が少ないということを数字として、おさえておく必要があると思います。分館を多く持っている市の例で、館ごとに開館日をずらしていたけれど、経費と労力のわりに、それほどメリットがないという事例もありました。また、図書館の職場というのは非常に過酷だというようなことが学生に広がり、募集をかけても人が集まらない状況です。

(事務局) 職員の総人数はまだ不足している状態です。その状況ではありますが、令和7年度、火曜日開館に向けて、取り組んでいるところです。

(委員) 祝日が開けてもあまり効果がないことを一般市民はなかなか理解できないので、数字なども示しながら、説明していただけたらと思います。

(委員) 非常に少ない人員で、アイデアを出しながら取り組んでいただいていると思います。読む子は読む、読まない子は読まないと両極端になっているので、特に就学前の子を対象にされているのがいいと思います。中学生も朝読書の時間を取っていますが、読んでるいる子は読んでいるし、読んでいない子は宿題をしています。

貸出冊数や蔵書数で何かを評価する時代ではなくなっているように思います。ただ、デジタル環境が整っていないことは、利用者の少なさにつながっているのではないのでしょうか。スマホで調べ物をしながら、本が目の前にあるというのは、本に親しみをもつことにつながると思います。

移動図書館の園児も利用者数に入っているということで、来館者ではないけれども、利用があることをアピールしてもいいと思います。

(会長) この評価の取り扱いについて、毎年ホームページに載せています。

図書館協議会は、外部の評価機関として意見を出し、最終的に公表します。どのようにまとめますか？

(事務局) 今日いただいたご意見をもとに、一旦会長と相談させていただいて案を作成し、その後、み

なさんにご確認いただく形で進めたいと思います。

(委員) 評価は、満足度ということではありませんね。

(事務局) はい、数値の件は今までから意見として出ており、他館でも数字だけではない評価を始めているところもあります。ただ、現在は運営方針の評価項目がこのようになっているので、現在の方針の期間である令和8年までは、この形で上げさせていただきます。

(会長) 貸出人数は増えているが、貸出冊数が減っているというお話がありました。

コロナが明けて、図書館に人が戻ってきても、貸出冊数は減っているのは、予算がずっと半減したまま、変わっていないというところが影響しているのではないのでしょうか？

(事務局) 守山、草津図書館を利用する栗東市民が年々増えています。利便性の問題だけではなく、本がないということが影響していると思っています。

(会長) 郷土資料のデジタル化が行政では進んでいます。図書館のDX化はどのような状況ですか？

(事務局) 令和8年度にコンピューターの入れ替えがあるので、そこに合わせて、郷土資料のデジタル化を考えています。ただ図書館だけではなく、いろいろな調整を進めていく必要があります。

② 令和5年度事業予定について

(事務局) 「令和5年度事業予定」について説明

(委員) Wi-Fiを整備するのは高額なのでしょうか？

(事務局) 議会などからもご意見をいただいて、最近調査に入ったところなので、はっきりとした金額はまだ出ておりませんが、回線を新たに引く必要があるのかどうかによっても、導入費用が変わってくるようです。検討していきたいと思っています。

③ その他

(事務局) 「レファレンス記録」について説明

3、閉会

(部長挨拶)

大変お忙しいところ、長時間にわたりまして、いろいろなご意見をいただき、ありがとうございました。今後も市民が使いやすい図書館であるように、運営をさせていただきたいと思いますので、皆様のご協力をお願いいたします。ありがとうございました。

次回

令和7年2月1日（土曜日）午前10時から 本館小会議室